



豊橋創造大学 大学院 健康科学研究科オープンラボ

新型コロナウイルス感染拡大により、人々の生活は一変し、様々な生活シーンにおいてあらためて健康維持の難しさに直面していると思います。こうした自粛生活をはじめ我々を取り巻く生活環境はすべて、我々の健康に影響を及ぼしていると言っても過言ではありません。したがって、人々の健康支援において求められることも日々大きく変化しています。

最適な健康支援を実現するためには、医学的な知識だけでなく、それを取り巻く医療はもちろん、こうした健康に影響を及ぼす生活環境因子を捉えるために、健康に関連する多様な俯瞰する多角的な視点が求められます。これを実現するのが、健康科学という学際的研究です。

豊橋創造大学大学院健康科学研究科では、健康の支援に関わる新たな知見を求める大学院生を募集しています。すべての人々の健康長寿を目指して、一緒に研究しましょう。

健康科学研究科長 後藤勝正

日程	[理学療法学領域] 7/28(水) 19:00~21:00 9/18(土) 14:00~16:00 [看護学領域] 8/8(日) 14:00~15:30 10/23(日) 14:00~15:30
会場	[理学療法学領域] 豊橋創造大学 A棟2F A21教室 [看護学領域] 豊橋創造大学 E棟3F E34教室
申し込み方法	[参加申込フォーム] 右記セミナー申込フォームから必要事項をご入力ください。 その際に申し送ったメールアドレスへの返信をもちまして、申込完了となります。 [Mail] kenkoukagaku@sozo.ac.jp 上記アドレスに「参加希望講座日」「氏名」「電話番号」 「対面方式かWEB方式(※理学療法領域のみ)」を記載してMailしてください。 [電話] TEL.050-2017-2100 [申し込み締切日] お電話にてお申込ください。 開催日の2日前まで
参加方法	後日参加申込された方にお知らせします。参加案内はセミナー開催の2日前までにお送りします。 届かない場合は下記までお問い合わせください。



<https://entry.s-axol.jp/sozo/?f=132>

お問合せ先

豊橋創造大学 入試センター TEL.050-2017-2100 Mail.kenkoukagaku@sozo.ac.jp

本セミナーに関する質問事項等があれば、上記のお問い合わせ先まで連絡をお願いいたします。

[諸連絡]いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。

健康科学とその学際領域研究への誘い

7/28(水)

理学療法学領域

対面方式/Web方式

時間

19:00～21:00(約120分)

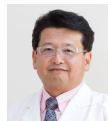
セミナー/15分(大学院での学びについて)

教育講座/90分

事務連絡/10分

教育講座1

生体機能の可塑性と そのポテンシャルの源



後藤 勝正

内容:生体機能は、生体内外からの刺激を受容し、その刺激に応じて適応・変化を示す。こうした適応・変化は、負荷される刺激を受容した結果として、遺伝子発現を介して引き起こされる。また、負荷される刺激条件により機能の亢進あるいは機能低下がもたらされる。こうした適応・変化が、リハビリテーションやトレーニング効果が発現し、生体機能は回復・向上する。しかし、刺激が適切でなければ、逆に生体機能は低下することになる。つまり、我々の生体機能を維持・向上させるのに「適切な刺激とは何か」が重要であり、世界的な研究テーマになっている。そこで、生体機能適応のメカニズムと今後の研究の展開について概説する。

教育講座2

病態動物モデルを用いた 中枢神経障害に対する 理学療法研究



石田 和人

中枢神経障害に対する理学療法への期待は大きい。臨床研究は盛んにおこなわれているが、障害された神経系の組織そのものの病態や理学療法の作用機序に関する研究には、病態動物モデルを用いた基礎研究が有効であると考えられる。本セミナーでは、理学療法学における基礎研究の意義について話題にさせて頂きたい。

8/8(日)

看護学領域

対面方式

時間

14:00～15:30(約90分)

教育講座/30分

セミナー/45分(大学院での学びについて)

事務連絡/10分

教育講座

高齢者とその家族を支える看護支援

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。在宅医療の推進に伴い、訪問看護等、在宅サービスのニーズが高まっているが、高齢者とその家族を支える専門職のケアの質向上が必要となる。現在、1人暮らし高齢者の増加や、認知症高齢者の増加が社会問題となっているが、1人暮らしや認知症になっても住み慣れた地域での生活を継続していくための支援に関する研究について概説する。



山根 友絵

9/18(土)

理学療法学領域

対面方式/Web方式

時間

14:00～16:00(約120分)

セミナー/15分(大学院での学びについて)

教育講座/90分

事務連絡/10分

教育講座1

筋骨格コンピュータモデルを用いた動作分析

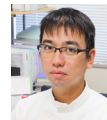


金井 章

理学療法は、基本的動作能力の回復、特に歩行能力の回復を目的として実施される。そのため、動作の逸脱が生じている場合、その原因となる病態を解明することで適切な理学療法を実施することができる。ここでは、人の動作を分析するための一助となる、筋骨格コンピュータモデルについて紹介し、その活用について考えたい。

教育講座2

姿勢制御研究から 理学療法を考える



富田 秀仁

理学療法対象者のほとんどは何らかの運動障がい呈しているが、その背景には必ず姿勢制御障がいも潜んでいる。つまり、対象者の姿勢制御様式を知ることで動作・運動を改善するための糸口を見出すことができる。神経疾患や整形疾患の姿勢制御研究を紹介しながら、臨床での理学療法の実践に必要な姿勢制御のキーワードについて解説していく。

10/23(日)

看護学領域

対面方式

時間

14:00～15:30(約90分)

教育講座/30分

セミナー/45分(大学院での学びについて)

事務連絡/10分

教育講座

術前外来における周術期看護の現状と看護師の役割

在院日数の短縮化により、周術期医療において手術決定時から全身管理および術後合併症を予防する介入の必要性が高まり、欧米では1990年代半ばから、本邦でも2000年代に入り大学病院を中心に術前外来が開設され始めた。術前外来では、術前検査結果の確認、問診や病歴等情報収集、呼吸訓練等の患者教育、周術期肺塞栓スクリーニング、術前休薬の確認、入院・手術説明等が行われており、多職種連携による外来運営が行われている。術前外来における看護師の看護実践とアウトカム指標の調査研究の結果から、術前外来で行われている看護の特徴について紹介する。



中村 裕美